



渋沢栄一と SDGs



～SDGsとは～

SDGsという言葉を知ったことはありますか。SDGs(Sustainable Development Goals「持続可能な開発目標」)とは、2015年の国連総会で採択された2030年までに持続可能でより良い世界を目指す国際目標です。17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない」ことを基本理念としています。



埼玉県では、あらゆる人に居場所があり、活躍でき、安心して暮らせる「日本一暮らしやすい埼玉」を実現するため、県民の皆さまや企業、NPO、大学、金融機関など多様なプレイヤーと連携してSDGsを推進しています。

このSDGsと渋沢栄一の理念や行動との結びつきについて見ていきましょう。

【渋沢栄一の理念・行動とSDGs】

まず理念です。渋沢栄一は、「道徳経済合一説」という考えを提唱しています。これは、「道徳」と「経済」とは一体であり、どちらか片方に専念するのではなく、共に両立して進むべきだというものです。企業は、経済の発展による、利益を独占するのではなく、社会全体の利益のために活動すべきであると説きました。

一方、SDGsは、経済(技術革新、働きがい等)の取組は大切であるが、その土台となる社会(教育、健康等)や環境(水、豊かな緑)についてもバランスを意識しながら取り組む必要があるとしており、「道徳経済合一説」とSDGsは親和性が高いと考えられます。

次に行動です。渋沢栄一が設立に関わった企業等の中には、東京株式取引所(現在の東京証券取引所)、第一国立銀行(現在は、みずほ銀行が承継)、東京瓦斯会社(現在の東京ガス)など、現在の日本の経済とインフラを支える基盤となっている企業等が数多くあります。これに対して、SDGsの17あるゴールの中には、目標8「働きがいも経済成長も」や目標9「産業と技術革新の基盤をつくろう」というゴールがあります。企業の設立という行動を通してSDGsのゴール達成に寄与していると考えられます。

同じように、渋沢栄一は商法講習所や日本女子大学校(現在の一橋大学や日本女子大学)の設立に関わり、若者の人材育成にも尽力するなど、教育分野の発展にも大きく貢献しました。SDGsの目標4には「質の高い教育をみんなに」とありますが、教育への投資によって、持続可能な社会を築こうとしていたのかもしれない。



他にも、中央慈善協会(現在の社会福祉法人全国社会福祉協議会)という、社会的弱者を支援する活動を行う団体の設立にも携わっていますが、SDGs には、目標1「貧困なくそう」や目標10「人や国の不平等をなくそう」というゴールがあります。また、日本赤十字社の設立・支援も行っており、日本の医療や災害救援活動の基盤整備への貢献は、目標3「すべての人に健康と福祉を」に通じる行動です。

さらに、渋沢栄一は、著書「論語と算盤」の中で、「正しい道理の富でなければ、その富は完全に永続することはできない」と述べていることから、長期的な視点に立ち、持続可能性を重視しながら経営を行っていたことがうかがえます。これはSDGsの目標12「つくる責任 つかう責任」や目標16「平和と公正をすべての人に」に通じる考え方です。現在では、環境への影響等も考慮しながら経済活動を行うことは珍しくありませんが、当時から将来を見据えた経営を志向していたのは、渋沢栄一が稀代の実業家として歴史に名を残した理由の一つではないでしょうか。



【おわりに】

渋沢栄一とSDGsの関わりについて御理解いただけましたか。新しい紙幣を手にした際には、ぜひこの話を思い出してみてください。SDGsが目標とする2030年まであと5年余りです。17のゴールが実現する世界に近づけるように、私たち一人一人が埼玉県で誕生した渋沢栄一の理念を心に掲げて、行動を起こしましょう。そして、持続可能な未来を創っていきましょう！



埼玉県マスコット

「コバトン」「さいたまっち」